

令和2年12月10日

次期バージョン (Ver.3.0.0) における更新予定の内容

現行バージョンからの変更点は、次の通りです。

● $\beta 7 \rightarrow \beta 8$ (令和2年12月10日) ●

<外皮>

1. 「当該住戸の外皮面積を用いず外皮性能を評価する(ここで計算)」において、「壁と壁(出隅)の熱橋の線熱貫流率」と「壁と壁(入隅)の熱橋の線熱貫流率」の入力を「壁と壁の熱橋の線熱貫流率」の入力に統合しました。

<給湯>

2. 電気ヒートポンプ給湯機において、計算方法を変更しました。また、給湯機の仕様に関するパラメータの入力フォームを追加しました。
3. 電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機(暖房部:ガス | 給湯部:電気ヒートポンプ・ガス)において、計算方法を変更しました。また、給湯機の仕様に関するパラメータ入力フォームを追加しました。
4. 電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機の指定において、品番の検索が一部機能しない問題を修正しました。なお、給湯機仕様に関する計算条件の読込・保存については今後の更新で対応予定です。

<コージェネ>

5. コージェネレーション設備の計算方法を変更しました。また、コージェネレーション設備の仕様に関するパラメータ入力フォームを追加しました。
6. コージェネレーション機器の指定において、品番の検索が一部機能しない問題を修正しました。なお、コージェネレーション設備の仕様に関する計算条件の読込・保存については今後の更新で対応予定です。

以上

● $\beta 6 \rightarrow \beta 7$ (令和 2 年 10 月 27 日) ●

<全般>

7. 共同住宅フロア入力法計算プログラムを公開しました。住棟の形状等にかかわらず、片廊下型の板状・長方形平面の建物形状を仮定して、住棟単位外皮平均熱貫流率(住棟単位 U_A 値)、住棟単位平均日射熱取得率(住棟単位 η_A 値)等を計算する共同住宅のフロア入力法が、Webプログラムから計算できるようになりました。

「共同住宅フロア入力法計算プログラム Ver.3.0.0 β 」

[https:// aptfloor.beta.lowenergy.jp/](https://aptfloor.beta.lowenergy.jp/)

以上

● $\beta 5 \rightarrow \beta 6$ (令和 2 年 10 月 05 日) ●

<全般>

8. 計算結果の確認画面において、全体のレイアウト、テーブル、および文言を修正しました
9. 入力画面において、入力項目の名称および選択肢の名称の変更、リンク切れ等の修正を行いました。
10. PDF に表示する項目および全体のレイアウトを整理しました。

<換気>

11. 簡易入力画面において、第一種ダクト式換気設備、または壁付け式第一種換気設備を選択した場合の有効換気量率の規定値を、0.85 から 1.00 に修正しました。

<給湯>

12. 熱源機の種類の選択によって、不要な選択肢(ふろ機能の種類)が表示されていた問題を修正しました。

<XML>

13. XML の読み込みが失敗する問題を修正しました

以上

●β4→β5（令和2年8月31日）●

<全般>

14. 計算結果をPDFで出力する機能を追加しました。
15. プログラム使用許諾の内容を変更しました。
16. 簡易入力画面のページで入力した内容を保持して詳細入力画面に移動できる機能を追加しました。
17. 計算結果の確認画面で表示される項目を変更しました。
18. ヘルプおよびインフォメーションの内容を修正しました。

<外皮>

19. 簡易入力画面の外皮の入力において、外皮性能の評価方法を「当該住戸の外皮面積を用いず外皮性能を評価する（ここで計算）」と選択した際に表示されていた取得日射熱補正係数の項目を削除しました。
20. 簡易入力画面の外皮の入力において、外皮性能の評価方法を「当該住戸の外皮面積を用いず外皮性能を評価する（ここで計算）」と選択し、構造の種別を「RC造」、「S造」を選択した場合に、「壁と壁（入隅）の熱橋の線熱貫流率」と「壁と壁（出隅）の熱橋の線熱貫流率」を入力する項目を追加しました。

<給湯設備>

21. 「ふろ機能の種類」の入力項目の位置を変更しました。

<気候風土適応住宅版／特定建築主基準版>

22. 気候風土適応住宅版及び特定建築主基準版を公開しました。

<XML>

23. XMLの読み込み、保存、PDF出力の際に、モーダル（操作画面に表示されるダイアログボックスの一種）を表示するようにしました。

以 上

● β3→β4（令和2年4月16日）●

<全般>

24. 項目名称の修正、ヘルプ及びインフォメーションの追加等の入力画面の修正を行いました。

<暖房設備／冷房設備>

25. ダクト式セントラル空調機において、室内側送風機の消費電力の入力下限値を100から1に変更しました。

<暖房設備>

26. 地域の区分が5～7地域の場合で、運転方式に「居室のみを暖房する」を選択した場合について、暖房設備の基準一次エネルギー消費量の算定において想定する温水暖房用パネルラジエーターの熱源機をガス潜熱回収型温水暖房機からガス従来型温水暖房機に修正しました。

<給湯設備>

27. 給湯専用型の電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機および給湯・温水暖房一体型の電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機（暖房部：ガス、給湯部：電気ヒートポンプ・ガス）について、入力画面に品番検索の機能を追加しました。

<コージェネレーション設備>

28. 入力画面に品番検索の機能を追加しました。

<XML>

29. 保存したXMLが読み込めない問題を修正しました。

以 上

● $\beta 2 \rightarrow \beta 3$ (令和 2 年 4 月 1 日) ●

<全般>

30. 住宅版の詳細入力画面を一新しました。

<外皮>

31. RC 造・S 造の構造熱橋部の熱損失が評価できるようになりました。この変更に伴い、外皮性能の評価方法において、当該住戸の外皮面積を用いず外皮性能を評価する（ここで計算）を選択した場合、以下の入力項目が追加されました。

- 木造・RC 造・S 造の種別
- 屋根／天井、壁、床の線熱貫流率
- 屋根／天井と壁、壁と壁、壁と床の熱橋の線熱貫流率

<給湯設備>

32. 台所水栓および洗面水栓の水優先吐水機能について、節湯の効果係数が日平均外気温度に応じて異なる効果係数を用いて計算する方法に変更しました。

33. 2021 年 3 月まで：

分類	節湯の効果係数の種類	適用条件	係数の値
台所水栓 洗面水栓	水優先吐水機能	台所の水栓すべてが 2 バルブ水栓ではなく、かつ、付録 K「節湯水栓の構造」により規定される「水優先吐水機能」を有する場合	0.70
		上記以外	1.00

- 2021年4月以降：

分類	節湯の効果 係数の種類	適用条件		係数の値
台所水栓 洗面水栓	水優先吐水機能	台所の水栓すべてが2バルブ水栓 ではなく、かつ、付録 K「節湯水 栓の構造」により規定される「水 優先吐水機能」を有する場合	日付 d における日平均給水温度 $\theta_{wtr,d}$ が18℃より高い場合	0.70
			日付 d における日平均給水温度 $\theta_{wtr,d}$ が18℃以下の場合	1.00
			上記以外	1.00

以 上

● $\beta 1 \rightarrow \beta 2$ (令和 2 年 2 月 25 日) ●

<全般>

34. 住宅版 S (簡易入力) から、住宅版 (簡易入力画面) に、名称を改めました。
35. エネルギー消費性能計算プログラム住宅版の入力画面 (簡易入力画面、詳細入力画面) の選択を、使用許諾条件の同意後に行うように変更しました。

以上

●β1（令和2年2月4日）●

<全般>

36. 入力項目を簡略化した、入力画面（名称：住宅版 S）を新たに公開しました。

- 住宅版 S（簡易入力）では、暖房設備、冷房設備、換気設備、給湯設備、照明設備について設備機器の種類のみを選択してエネルギー性能を計算します。
- 住宅版 S（簡易入力）は、住宅版（詳細入力）の入力を簡略化したものであり、計算方法に住宅版（詳細入力）との違いはありません。このため、入力した条件が同じであれば、住宅版（詳細入力）と同じ計算結果が得られます。
- 住宅版 S（簡易入力）で入力した内容を保持して住宅版（詳細入力）へ移動する機能、および、PDF 出力の機能は、今回の更新では未実装です。これらの機能は、次回以降のβ版更新により、順次、実装される予定です。
- 算定方法は、β1 公開時点では公式版プログラム（ver.2.7.2）と同じですが、令和2年4月以降、住宅版（詳細入力）の更新に合わせて、順次、更新します。

以 上